

令和8年度 学校推薦型選抜・社会人選抜 解答例

第1問

問1

自分の生活や業務に必要なと感じている人が多いため。(26字)

生成AIの使い方がわからず、活用のハードルが高いため。(27字)

問2

「生成AIの活用」は業務効率化の十分条件にはなりうるが、必要条件ではない。業務効率化は他の手段(RPAや業務の見直しなど)でも実現可能であるからだ。つまり、生成AIを使わなくても効率化できるため、「必要条件」とは言えないが、適切に活用すれば効率化できる可能性はあるため「十分条件」にはなる。(147字)

問3

日本企業の生成AI導入率が低いのは、「使い方がわからない」や「効果的な活用法が不明」といった社内の不安に加え、特に中小企業で導入方針が定まっていないことが大きい。また、日本企業は慎重な意思決定を重視し、リスク回避志向が強い傾向があるため、新技術の導入に時間がかかる。他国と比べてスタートアップ企業が少なく、柔軟な導入環境が整っていないことも背景にあると考えられる。(182字)

第2問

問1

障害者への個別対応にとどまらず、健常者も含めた社会全体の仕組みを変えるという点が他の二つと異なる。(49字)

今ある枠組みに誰かを取り入れるのではなく、既存の仕組みを変えるのがユニバーサルであるという点。(47字)

問2

筆者は、触覚的な学びを通じて子どもたちが「感覚の多様性」に気づくことがユニバーサル社会の実現に結びつくとして述べている。私はこの主張に賛成する。触覚を使った学びは、自分とは異なる感覚で生きる人々の感じ方や思考を想像する力を養い、多様な他者への理解や共感を深める契機となる。私たちの社会は視覚に大きく依存しているが、点字などに触れる体験を重ねれば、触覚や聴覚といった他の感覚の潜在力に気づける。ユニバーサルとは、少数者を特別に扱うのではなく、社会の仕組み全体を多様性に開かれた形にしていくことである。感覚の違いを認め合える環境を整えれば、誰もが安心して参加できるユニバーサルな社会が築かれると考える。(296字)